

安全データシート

整理番号:10231
作成: 2010年 6月 15日
改訂: 2021年 4月 7日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
会社名
住所
担当部門
電話番号
FAX番号
緊急連絡電話番号
推奨用途

アサヒボンドBE13 主剤

アサヒボンド工業株式会社
東京都板橋区大谷口北町3-7
営業部
03-3972-4929
03-3972-4583
営業部 03-3972-4929
モルタルやコンクリートの欠損補修に限る。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的
健康に対する有害性

分類対象外または分類できない	
急性毒性(経口)	区分に該当しない
皮膚腐食性/刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	区分2
生殖毒性	区分に該当しない
発がん性	区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1
誤えん有害性	分類できない
水生環境急性有害性 短期(急性)	区分2
水生環境慢性有害性 長期(慢性)	区分2

* 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

環境に対する有害性

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 警告
危険有害性情報

(H315) 皮膚刺激
(H320) 眼刺激
(H317) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
(H341) 遺伝性疾患のおそれの疑い
(H350) 発がんのおそれ
(H361) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
(H370) 臓器の障害
(H372) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
(H401) 水生生物に毒性
(H411) 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

(P264) 取扱い後は手をよく洗うこと。
(P280) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
(P260) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
(P272) 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
(P201) 使用前に取扱説明書を入手すること。
(P202) すべての安全注意を理解するまで取り扱わないこと。
(P270) この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
(P273) 環境への放出を避けること。

【応急措置】

(P302+P352) 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。
(P332+P313) 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
(P362+P364) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
(P305+P351+P338) 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
(P337+P313) 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。
(P308+P313) ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。
(P314) 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

- (P391) 漏出物を回収すること。
【保管】(P405) 施錠して保管すること。
【廃棄】(P501) 内容物や容器は、国・地方の許可を受けた産業廃棄物業者に委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
 化学品又は一般名 ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂
 危険有害成分

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	CAS番号	官報公示整理番号
ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂	14～ 18%	25068-38-6	(7)-1283 (化審法)
グリシジルエーテル	3～ 5%	記載在り	既存
シリカ(結晶性)	50～60%	14808-60-7	(1)-548 (化審法)
酸化チタン	0.8～1.2%	13463-67-7	(1)-538 (化審法)
無機化合物	20	記載在り	既存
シリカ(非晶性)	1>	7631-86-9	(1)-538 (化審法)

4. 応急措置

- 吸入した場合: 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、医師の診察を受けること。
 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣類を脱ぐこと。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診察、手当てを受けること。
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診察、手当てを受けること。
 飲み込んだ場合: 安静にして直ちに医師の処置を受けること。嘔吐物は飲み込ませないこと。医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤: 泡末消火剤、CO₂、噴霧水、土、乾燥砂。
 使ってはならない消火剤: 棒状水
 火災時の特有の危険有害性: 不完全燃焼及び熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素、各種炭化水素、ばい煙などの毒性ガスが発生する恐れがある。これらを閉鎖された空間内又は高濃度で吸入すると極めて危険な恐れがある。
 特有の消火方法: 周辺火災の場合; 移動不可能な場合、容器、梱包及び周辺に散水し冷却する。
 着火した場合; 火元(燃焼源)を断ち適切な消火剤を用いて風上から消火する。
 消火を行う者の特別な保護具及び予防措置: 火災により有毒ガスやヒュームが発生するので、適切な呼吸用保護具(送気マスク、自給式呼吸器等)を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項: 作業者は保護具(ばく露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、風上で作業する。
 保護具及び緊急時措置: 屋内の場合、処理が終わるまで適切な換気を行う。
 漏出した場所の周辺にはロープを張る等して、関係者以外の立ち入りを禁止する。
 環境に対する注意事項: 漏出物が河川、水路等公共水路に流れ込むのを防止する。漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
 封じ込め及び浄化の方法及び機材: 危険でなければ漏れを止める。
 二次災害の防止策: 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
 漏出した場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。万一、河川公共水路等に流れ込んだ場合は、直ちに地方自治体の公害担当者に報告する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

- 取り扱い
 技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 安全取扱注意事項: 眼、皮膚との接触を避けること。
 ミスト、蒸気の吸入を避けること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 環境への放出を避けること。
 接触回避: 「10. 安定性及び反応性」を参照願う。
 衛生対策: 取扱い後はよく手を洗うこと。顔等をよく洗い、うがいをすること。
 保管
 安全な保管条件: 施錠し換気の良い場所で保管する。容器を密閉しておくこと。
 安全な容器包装材料: 鋼(スチール)製容器(缶、ドラムなど)

8. ばく露防止及び保護措置

- 許容濃度
 日本産衛学会(2017年度版): シリカ(結晶性); TLV-TWA 0.03mg/m³(吸入性粉じん)
 シリカ(非晶性); 第3種粉じん、2mg/m³(吸入性粉じん)、8mg/m³(総粉じん)
 無機化合物; 第2種粉じん、けい酸10%未満の鉱物性粉じん
 ACGIH(2007年度版): シリカ(結晶性); TLV-TWA 0.025mg/m³
 設備対策 貯蔵ないし取り扱う作業場には身体洗浄及び洗眼のための設備を設置すること。
 特別な換気要求事項はない。
 保護具
 呼吸用保護具: 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具:	適切な保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具:	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具:	適切な保護衣を着用すること。保護靴又は長靴。
特別な注意事項:	皮膚、眼への接触を避ける。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態、色:	灰黒色ややウェット状粉末
臭い:	僅かなエーテル臭
融点/凝固点:	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲:	データなし
可燃性:	可燃性である。
爆発下限及び爆発上限/可燃限界:	データなし
引火点:	185℃(推定)
自然発火点:	データなし
分解温度	データなし
pH:	データなし、液体ではない。
動粘性率:	データなし、液体ではない。
溶解度:	無機物成分を除いて有機系成分は芳香族炭化水素系溶剤、ケトン等の有機溶剤に可溶。
n-オクタノール/水分係数(log 値):	データなし
蒸気圧:	データなし
蒸気密度:	データなし
密度及び/又は相対密度:	1.25~1.40g/m ³
相対ガス密度:	データなし
粒子特性:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性:	通常の条件下で自己反応性はないとみなされ安定性である。
化学的安定性:	通常の保管及び取扱において安定性である。
危険有害性反応可能性:	データなし
避けるべき条件:	35℃以上の温度負荷を避けること。
混触危険物質:	アミン系化合物(3級アミン含む)やチオール系化合物。
危険有害な分解生成物:	一酸化炭素、低分子有機化合物の発生が推定される。

11. 有害性情報

急性毒性	以下の急性毒性の物質を含む。
経口:	ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂 ラット LD ₅₀ 11,400 mg/kg 酸化チタン ラット LD ₅₀ >20,000 mg/kg シリカ(非晶質) ラット LD ₅₀ 3,160 mg/kg
吸入:	シリカ(非晶質) ラット LC ₅₀ 2,190 mg/kg
皮膚腐食性/刺激性:	以下の区分の皮膚腐食性/刺激性の物質を含む。 区分2 ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂、グリシジルエーテル
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性:	以下の区分の眼に対する重篤な損傷・刺激性の物質を含む。 区分2 ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂、酸化チタン
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	呼吸器感作性;データなし 以下の区分の皮膚感作性の物質を含む。 区分1 ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂
生殖細胞変異原性:	以下の区分の生殖細胞変異原性の物質を含む。 区分2 グリシジルエーテル
発がん性:	以下の区分の発がん性物質を含む。 区分1シリカ(結晶性) は次の根拠による。 IARC は結晶質シリカ粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997年に「グループ 1」に分類し、2012年の再評価でも分類結果を変更していない(IARC 100C(2012))。 日本産業衛生学会が「第1群」、ACGIH が「A2」(ACGIH(7th,2006)、NTP が結晶質シリカ(吸入性粒子径)に対して「K」に分類している(NTP RoC(13th,2014))。 酸化チタンは区分2扱い。
生殖毒性:	区分に外当しない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	シリカ(結晶性);反復ばく露に比べてデータが少ないが、ヒトにおいて短期ばく露でも吸入濃度が高い場合は呼吸器系に影響を及ぼすとの記載がある。IARC はPriority 文書であるため区分1としている。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	シリカ(結晶性);Priority 文書に、ヒトにおいて呼吸器、腎臓に影響を及ぼすとのことで区分1になっている。 結晶質シリカの職業ばく露と呼吸器への影響(珪肺症、肺がん、肺結核)が確認されている。他に自己免疫疾患(強皮症、関節リウマチ、多発性関節炎、混合結合組織疾患シェーグレン症候群、多発性筋炎)、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性もみられるとされる(SIDS(2013)、CICAD 24(2000)、DFGOT vol.14(2000))。

動物実験においても、ラットを用いた反復吸入ばく露試験により肺の線維化が確認されているSIDS(2013))。
 誤えん有害性: データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水性環境有害性 短期(急性): 以下の水性環境有害性の物質を含む。

ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂

甲殻類 オオミジンコ EC₅₀(48 時間) 1.7mg/L

水溶解度 0.041mg/L

水性環境有害性 長期(慢性): 長期継続的影響により水生生物に毒性(区分2)

残留性・分解性: ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂 難分解性(BOD)分解度0%

生態蓄積性: ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂 低濃縮性 BCF<42

土壤中の移動性: データなし

オゾン層への有害性: 本成分はモントリオール議定書の付属書にリストアップされていないため分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物: 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号: 3077

品名(国連輸送名): 環境有害物質(固体)

国連分類: クラス 9

容器等級: III

海洋汚染物質: 該当

国内規制

陸上輸送: 消防法に従う。

海上輸送: 船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送: 航空法に定められている運送方法に従う。

特別の安全対策: 保護具、消火器を携帯する。
 容器に漏れないことを確認し、落下、転倒、破損がないように積載し荷崩れ防止を確実にを行う。

15. 適用法令

消防法: 危険物に該当しない。

化審法: 優先評価化学物質: ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂

労働安全衛生法 名称等を表示及び通知すべき有害物: シリカ、酸化チタン

変異原性が認められた物質: ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂
 (平成9年12月24日労働基準局長通達 基発第770号の2)

労働基準法

感作性物質の指定: ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂
 (平成8年3月29日労働基準局長通達 基発第182号)

疾病化学物質の指定: ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂
 (法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法): 該当しない。

船舶安全法: 危規則告示別表第1 (有害性物質) 容器等級III

海防法: 有害液体物質(X類同等の物質)

航空法: 施行規則告示別表第1 (有害性物質) 等級III

輸出貿易管理令: キャッチオール規制対象品

16. その他の情報

JAlA-005396-F☆☆☆☆

参考文献

1) JIS Z 7253 日本規格協会

2) メーカー発行の安全データシート

3) 日化協「緊急時応急措置指針」

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保障をなすものではありません。また、注意事項は通常取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。